

DK55

74

會社概況報告

(昭和19年11月27日作成)

南滿洲鐵道株式會社

国立国会図書館



0025285000

0025285-000

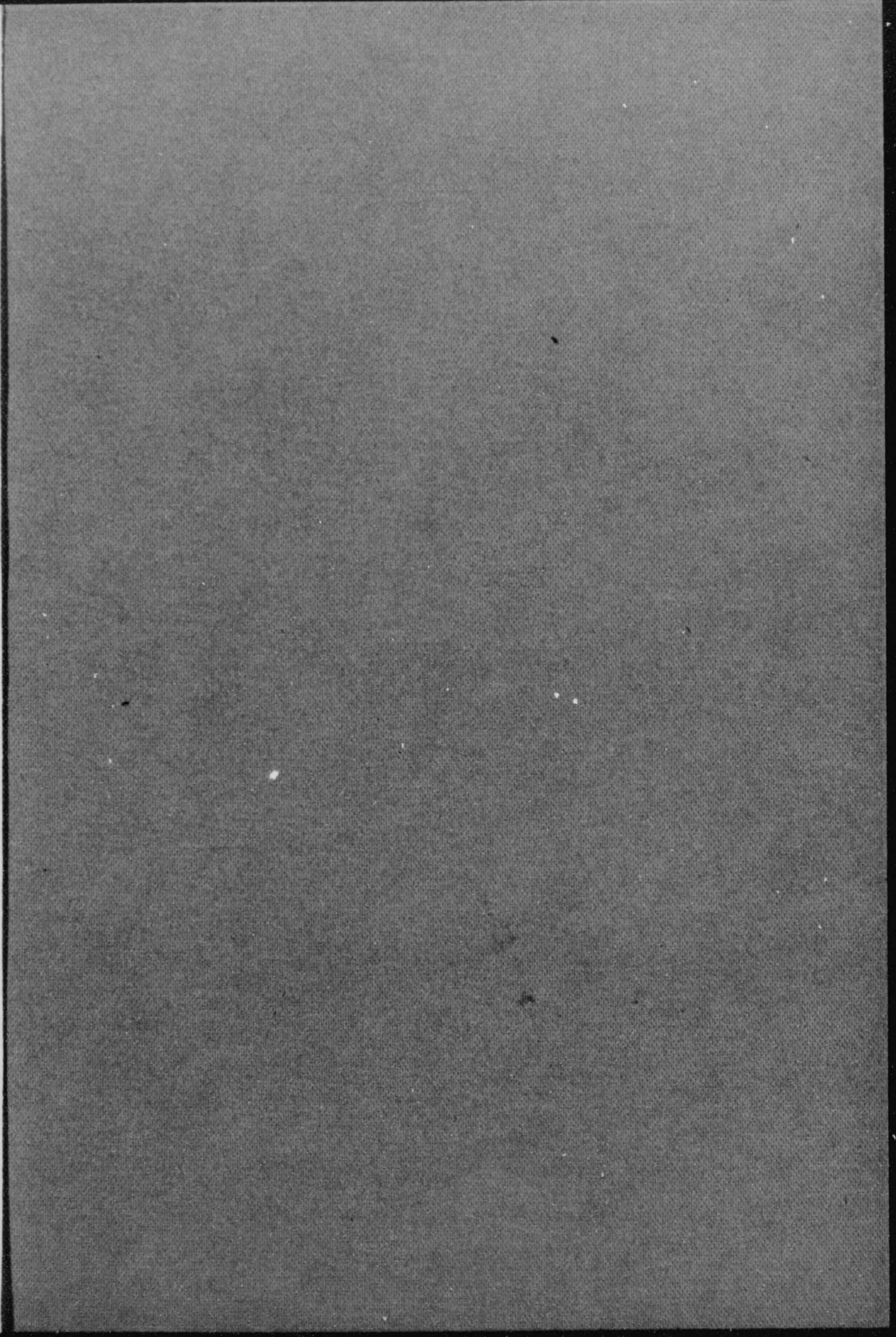
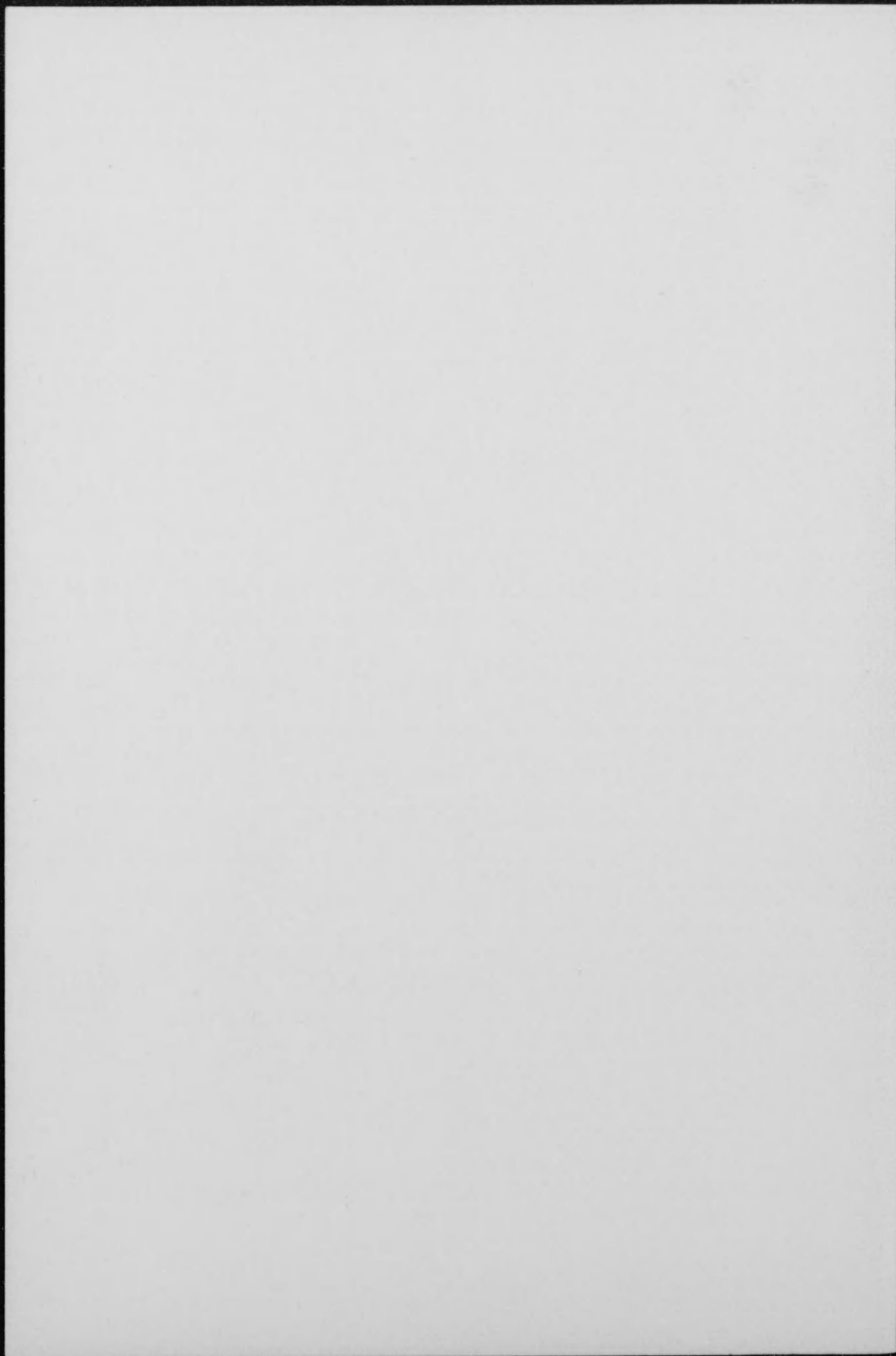
DK55-74

会社概況報告

南滿州鐵道

1944. 11

ADF



20R58

p8,20,36欠

極秘

一連番號第

11
號

會社概況報告

南滿洲鐵道株式會社

紙數

參拾七

枚

昭和十九年十一月二十七日作成

寄贈

岩手菊郎殿

DK 55
74

會社概況報告

通紙ノ一般概況ニ關シ概報告申上ケマス

第一 酒造運営ノ基本方針

先ツ會社運営ノ基本方針ニ關シ申上ケマス

現職部下ニ於ケル我社ノ運営ニ就キマシテハ茲ニ軍司令官御就任ニ際
シ御要請アリマシタ決意願ノ遵徴ト社紀ノ刷新、全能力ノ戦力化、
日漸更自給應務ノ確立及防生應務ノ確立ニ宜シク置キ其ノ御趣旨ニ則
リ之カ具現化ニ努メテ居リマス

一 決意願ノ遵徴ト社紀ノ刷新



79W12103

ア 社訓ノ制定

我社ハ創業以來國策遂行ノ先驅トシテ其ノ使命ニ邁進シ來ツタノ
テアリマシテ我社ニ於テハ傳統的ナ蘊鐵精神カ醸成傳承サレテ居
ルノテアリマスカ決戦下是ノ精神ヲ最モ明確ナル形ニ於テ全從事
員ニ普遍徹底セシメ其ノ根本理念タル皇道精神ヲ振起スルコト
カ緊要ナルコトト考ヘマシタノテ昨年十二月八日之ヲ社訓トシテ
明文化シ

- 一 皇道ノ大義ニ徹シ皇運ヲ奉翼スヘシ
- 一 創業ノ精神ニ基キ社業ヲ恢弘スヘシ
- 一 民族ノ協和ヲ圖リ社風ヲ作興スヘシ

トノ三ヶ條ヲ定メ之カ認識ノ徹底ト實踐ニ全社一體トナツテ邁進
致シテ居リマス

イ 社員會ノ改組

又從來兎角不明確ナル性格ヲ有シテ居タ社員會ヲ改組シ總裁ヲ會
長トシ滿人ヲモ加入セシメ眞ニ全社一體ノ組織ヲ採リ又社訓ニ應
スル綱領ヲ有スル社業翼贊ノ團體ニ改メ社員ハ其ノ公私生活ノ全
域ニ亘リ小職ノ統率下一貫セル觀念ヲ以テ行動スル態勢ヲ樹立致
シマシタ

ウ 社紀刷新

次ニ社紀ノ刷新ニ關シマシテハ小職就任以來常ニ腐心致シテ居ル所テアリマシテ社内ニ於ケル責任態勢ノ確立及信賞必罰ノ方針ヲ以テ專ニ當リ各般ノ查察制度ヲ強化シ職場練成ニ努メル等各種ノ手段ヲ講シテ居リマス更ニ戦局ノ進展ニ應ジ益決戦意識ヲ昂揚スル爲本年八月決戦非常措置ヲ講シ一部人員ノ淘汰ヲ行ヒ業務ノ簡素壓縮ヲ圖リ日人ノ動員就中現業ノ強化ニ重點ヲ置キ人員調整ヲ實施致シマシタ其ノ結果從來日人ニ於テ一四%ノ減人ニ於テ一〇%

%ニ上ツテ居タ缺勤率カ夫々五%及七・八%ニ低下セル外業務ノ運行能率モ著シク活潑化サレテ參リマシタ

二 社業決戰態勢ノ確立

戦局ノ進展ニ應シ會社ノ全能力ヲ擧ケテ戦力化センカ爲本年度ニ於テハ會社實行目標ヲ「全職場ノ決戰化」ト定メ苛烈ナル戦場ニ腐接シ我國戦力ノ基盤タル滿洲ニ於テ其ノ中核トシテ輸送並生産ヲ擔當スル我社ノ全部門ニ亘リ其ノ業務ニ於テ其ノ心構ニ於テ徹底的ナル切替ヲ實施シ決戰即應態勢ヲ確立スルコトヲ所期致シテ居リマス其ノ第一方策トシテ

フ 留置本部新京移駐

ヲ 前 行 或 マ シ タ 從 來 本 部 力 下 達 又 ハ 奉 入 ニ 所 任 シ テ 居 タ 爲 係 係 係
ト ノ 間 ニ 於 ケ ル 進 築 ニ 於 テ 不 下 分 ノ 細 力 ア リ 爲 ニ 留 置 ノ 全 能 力 ラ
皆 揮 シ 得 ナ イ 也 モ ア リ マ シ タ カ 昨 年 五 月 及 本 年 二 月 實 施 域 シ マ シ
タ 爲 爲 ノ 新 京 移 駐 ニ 似 リ 爲 、 所 以 國 際 局 ハ 勿 論 其 ノ 他 各 種 課 務 企
業 也 ト ノ 間 ニ 於 テ 是 等 ノ 新 置 比 ハ 各 々 ト シ テ 課 務 課 務 課 務 課 務 課 務
有 ス ル 能 力 ハ 各 分 課 ニ 於 テ 十 分 ニ 發 揮 サ レ ツ ツ ア ル モ ノ ト 考 ハ テ
居 リ マ ス

業ノ組織編成ニ就キマシテハ此等次級非常活直トシテ現業ノ強化

——直接轉送及生産ニ寄與スル部面ノ強化ニ重錮ヲ置キ長期計畫ニ

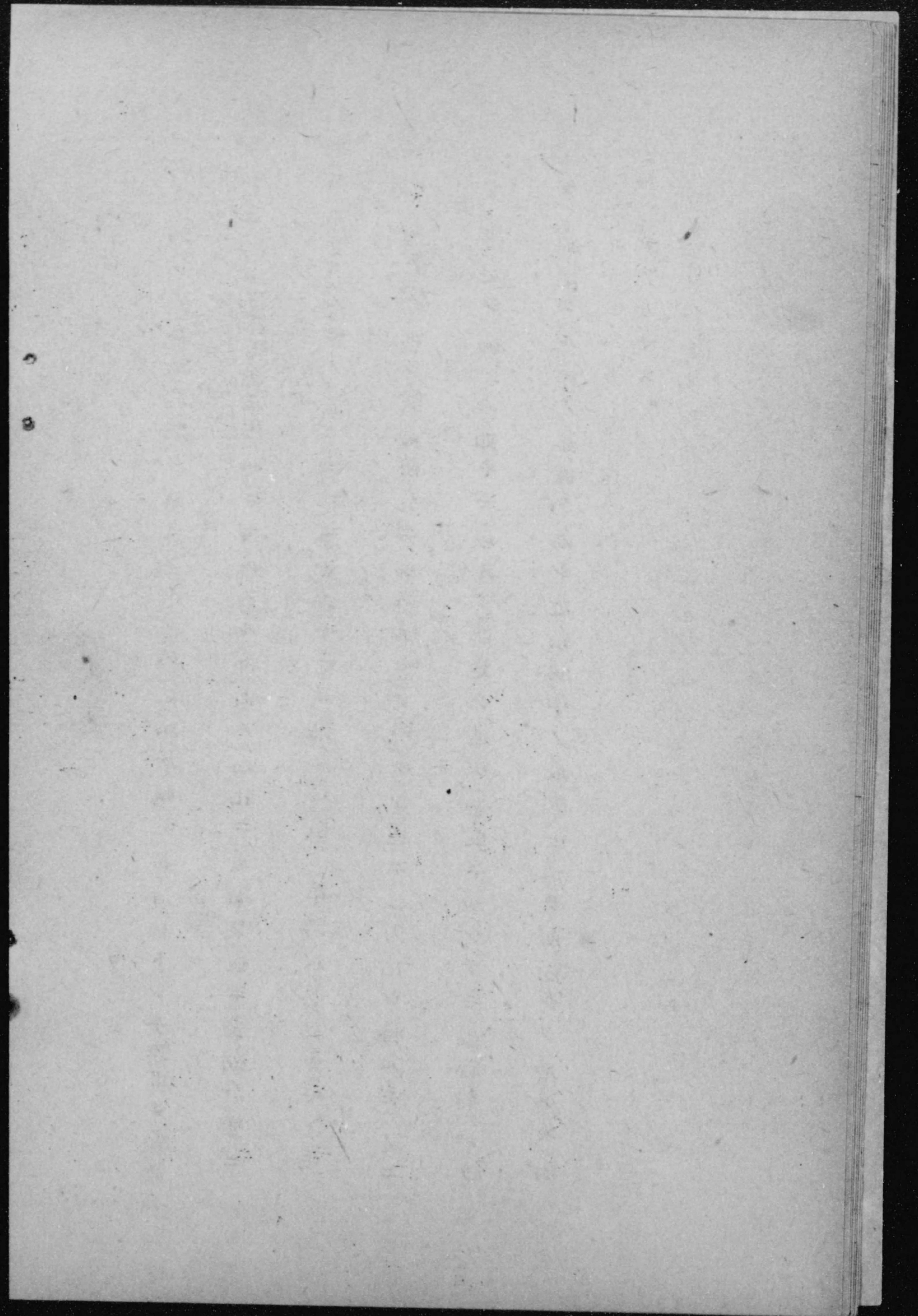
屬スルモノ直ニ次級ニ寄與セザル米穀ハ假令平時ハ必ずナモノモ

斷乎整理シ試験研究ニ屬スルモノハ現在直ニ取刀止シ得ルモノニ

限定シ調査ノ如キモ項目ヲ限定シ進送制度ニ關シテモ戰時等如ク

副定スル等ノ應置ラ得シ組織能率ノ最大發揮ヲ期シテ居ル次第

テアリマス



欠

MISSING

社員勤勞態勢ノ確立

9

逼迫セル人員資材ノ現情下兵ノ不足ヲ補強セン爲ニハ人力特ニ作
業能率ノ徹底的昂上ヲ以テ補フノ能ハナイノテアリ教育訓練ヲ最
モ重視シ作業管理ヲ強化致サネハナラナイノテアリマス我社ハ假
年采主トシテ日本人青少年社員ニ對シ青年隊ヲ結成シ多數ノ習
業成績ヲ目管シ兵ノ訓育指導ニ努メテ参リマシタカ更ニ滿人ニ
對シテモ同様ノ措置ヲ講スルコトトシ本年七月協働隊ヲ結成シ嚴
格ナル規律ノ下ニ單ニ精神方面ノミナラス業務面ニ於テモ訓練
ヲ強化シテ居リ之ニ依リ此ノ困難ヲ克服スル積リテアリマス

然シ一面社員ノ物心兩面ニ於ケル生活ノ安定ヲ計リ其ノ地位ヲ向上セシムルコトハ喫緊ノ要件デアリマスノテ是等ノ對策ヲモ併セ考慮スルコトト致シマシタ

將ニ青少年社員ノ結核問題ニ就キマシテハ我國戦力上閉塞スルコトノ出采ナイ由々シイ問題デアリマスノテ早期診断及健康管理ヲ徹底スルコトニ依リ之ヲ撲滅スル方策ヲ計シ保健院ヲ新設シ社員ノ健康管理ノ術ニ富ラシメ本年度ニ於テハ「結核三分ノ一激」ヲ目標トシテ施策ヲ進メタ結果幸ニ若シク結核患者ノ減少ヲ見出シ所期ノ目的ヲ達スルニ至ツテ居リマス

他面現在ノ物價ノ趨勢ヲ勘考シ社員生活ノ安定ヲ圖ル爲各種ノ手
當等ノ増額ヲ考慮シ給與改正ヲ實施致シタイト考へ目下認可申請
中デアリマス又社員ニ對スル給與乃至生活ノ管理ニ就キマシテハ
従來ノ如キ金銭給與ヲ以テシテハ十分テハアリマセンノテ本年七
月従來ノ生計組合ヲ社内機關ニ統合シ且住宅關係業務ヲモ併セ管
掌スル生計局ヲ新設シ其ノ十全ヲ期シテ居リマス

三 傍系會社運営ノ一體化

次ニ現在函館ノ監理スル大小數十ノ傍系會社ニ關シマシテモ之カ運営
ノ基本方針ヲ確立シ漸次目標トノ有様的一體化ヲ促進センカ爲具

ノ社ノ重要方策乃至計畫ニ付テハ必ス満鐵トノ緊密ナル連繫ニ於
テ策定スルコトトセシメ全傍系會社ヲ併セ満鐵ノ統制下一糸亂レ
サル體制ヲ整ヘルコトト致シマシタ

三 防空態勢ノ確立

次ニ防空態勢ニ關シ甲上ケマス

我府ノ防空態勢ハ軍ノ御指導ノ下ニ現有能力ヲ確保スル方針ヲ以テ
主トシテ燈火管制、通信回線、主要施設防護、短絡線敷設等は急ノ
應急修繕及作業訓練ヲ具備シ來ツタノデアリマスカ最近ニ於ケル在
支米空軍ノ狀態ニ對處シ皇詔ヲ就中南滿ノ三局ニ指向シ應急修繕班
ノ増備、修繕資材ノ移調、救護車掩護ノ構築等ヲ實施シ概ネ現在ノ
空襲ニ對處シ得ル態勢ヲ緊急處置致シマシタカ更ニ空襲苛烈化ノ懸
念ヲ考慮シ橋梁切斷ノ場合ニ於ケル臨機應行確保對象、車輛掩護、

移動修繕対策、工場分散等ニ就キ計畫中デアリ、今後新設スル施設
ハ勿論現在ノモノニ對シテモ凡テ防空的見地ニ立脚シテ計畫設計ス
ル様致シテ居マス

又空襲等危険地區在勤社員ニ對シテハ特殊手当ノ支給、財産補償等
ノ制度ヲ新設シ安ンシテ職務ニ挺身スル措置ヲ講シテ居リマスカ先
般ノ空襲ノ結果ヨリ見ルモ我社従事員ニ於テハ聊カノ不安動搖モナ
カツタコトハ誠ニ心強イ次第ト考ヘテ居マス又防諜ニ就キマシテハ
社外ノ刷新ト併而考ヘ直接且安機密事項ヲ取扱フ我社従事員ノ機密
漏洩防止ニ關シ十分ナル注意ヲ拂ヒ対策ヲ講シテ居マス

第二 主要産業ノ現勢

日清支自給體制ノ確立上我府ニ負荷セラレタル實務ハ寔ニ重大ナルモノカアルノテアリマシテ輸送部門ニ於キマシテハ戰時物資輸送ノ完遂並小運送ノ充實、生産部門ニ於テハ石炭及頁岩油ノ増産、潤滑油ノ生産、機械工業特ニ車輛船舶ノ現地自給及修理工業ノ確立、木材ノ増産化學工業ノ増進等單ニ滿鐵ノミナラス廣ク關係會社ヲモ動員シ其ノ達成ニ邁進致シテ居ル次第ニアリマス

一 運 輸 部 門

ア 國 内 輸 送

國內輸送ニ就キマシテハ年度當初想定致シマシタ貨物九、三〇〇
萬噸旅客一五、五〇〇萬人ト言フ輸送量ハ出貨不良等ノ爲貨物ハ
八、八〇〇萬噸旅客ハ増加シテ一七、二〇〇萬人ト言フ見込テア
リマシテ更ニ最近ニ於ケル空襲ノ影響等ヲ考ヘ合セレハ貨物ハ更
ニ下廻ルコトヲ危惧サレル有様テアリマス
次ニ小運送能力ノ擴充ノ爲ニハ滿洲國政府ト一體トナリ小運送能
力ノ増強、國際運輸ノ強化ヲ圖リ輸送能率ノ改善ニ努力中テアリ
マス

貨車滯留時間ハ上半期ニ於テ昨年ニ比シ二。一時間ノ短縮ヲ見マ

シタ他運轉事故モ十月末迄ノ實績ニ於テ昨年度ニ比シ二八。五%
ノ減少ヲ示シテ居リマス

イ 陸送轉據

我社ハ豫テ大陸諸鐵道ノ根幹タル傳統ト實力トヲ確信シ隣接諸鐵道
ニ對スル協力援助ヲ惜シマナカツタノテアリマスカ近時海上輸送
ノ不圓滑ニ代ルヘキ陸送轉據ニ就キマシテハ本總送開始以來安奉
奉山線ノ複線化、從來ノ南北幹線ヨリ東西幹線ヘノ轉移等我社分
擔部面ノ整備ヲ行フノミナラス更ニ大陸ニ於ケル輸送ノ中心トシ
テ所要ノ車輛人員資材ヲ華北及朝鮮ニ供出シ本總送ノ完遂ニ努メ

テ居リ、安奉線ハ本年九月一日全線ノ複線化ヲ了シ、山線ハ四
 箇所ノ長大橋梁ノ完成ト共ニ全線ノ複線運行カ可能トナル豫定
 テアリマス、施設關係ヨリシテハ現在ノ計畫ヲ以テ來年度八月
 間五〇萬噸ノ轉嫁輸送ヲ遂行シ得ル豫定テアリマス
 他鐵道ニ對シマシテハ現在朝鮮ニ對シ、機關車一一〇輛、貨車二、
 九〇〇輛、華北ニ對シ、機關車一一三輛、貨車二、二〇〇輛ノ計畫
 五輛貨車五、一〇〇輛ヲ供出スル協定トナツテ居リマスカ、日々ノ
 運用ニ於テ貨車ハ約七〇〇輛協定以上ニ出越トナツテ居ル有様
 テアリマス、此ノ他南鮮ノ港灣ニ對シテハ荷役機械及岸立工人

ヲ供出シテ居ル狀況テアリマス

尙朝鮮鐵道幹線複線化援助ノ爲ノ軌條供出工事ハ軍隊ノ御援助

ヲ得テ十月七日ヨリ撤去工事ヲ開始シ來月五日ヲ以テ工事完了

ノ豫定テアリマス



欠

MISSING

關係ニ於テ自動車ノ計畫輸送ヲ行ヒ重要物資ノ輸送ヲ完遂スルコ
 トト致シマシタカ之レニ勤員致シテ居ル自動車ハ現在二、四一五
 輛テアリ内約四〇%カ國營自動車テアリマス尙今後新車及部品
 ノ入手カ愈窮屈トナルモノト考ヘラレマスノテ計内ニ之レヲ自給
 スル計畫ヲ進メテ居ル他代用燃料用ノアルコールニ就テモ之レカ
 自給ノ爲工場ヲ建設中テアリマス

車輻其ノ他ノ現地自給

鐵道車輛其ノ他電氣機器等從來内地ニ依存シテ居マシタモノノ現
 地自給ヲ圖ル爲ニハ國內工場ノ整備擴充並各種部品製造業者ノ

大陸進出ヲ求メネハナラナイノテ車輛關係ニ於テハ曾耐鐵道工場

及滿洲車輛會社ノ整備ヲ急キ又空氣制動機部品、連結器、電氣絕

緣材料製造工場等ノ滿洲進出ヲ促進シ車輛新造ニ於テハ機關車ニ

〇〇輛貨車五、〇〇〇輛ノ製造能力ヲ有スルニ至リ電氣關係ニ於

テモ一部自給ノ見込カ立チマシタカ更ニ電氣機關車ノ新造ヲモ爲

シ得ル様關係業者ノ進出ヲ求メ撫順ニ於テ工場ヲ計畫中デアリマ

ス

尙造船ニ就テハ木造船製作所及哈爾濱造船所ニ於テ電委託ノ木造

船及大發動機ノ生産ヲ行ツテ居リマス

二 礦工部門

ア 出炭狀況

無願炭礦ニ於ケル出炭狀況ハ當初ノ本年度計畫八一〇萬噸ニ對シ
勞務關係其ノ他ノ事情ニ依リ七三七萬噸ノ見込ニテ洵ニ遺憾ナル
狀態ニアリマスカ無願炭礦ハ坑内堀ニ於テハ深部採掘勞務未々完
了セサルト露天堀ニ於テハ茲數年間剝離ヲ犧牲ニシテ出炭ヲ急イ
タ爲メカ更生ニハ相當ノ準備ヲ必要トスルノテアリマシテ之ニ對
シテハ淺部器材ヲ利用スル富錦其ノ他新炭田ノ開發、坑内深部採掘
ノ爲メ大斜坑ノ建造並露天堀更生ノ爲メ剝離增強及機器修理能力ノ

增強勞務行政供出ノ確保、勞務管理ノ改善等ヲ行ヒ急速ニ此ノ狀
態ヲ恢復スヘク銳意努力致シテ居リマス

イ 製油事業

我カ國液體燃料増産ノ現下緊急ノ要請ニ對處シ撫順ニ於ケル頁岩
油ノ生産確保並其ノ擴張ニ努メ本年度ニ於テハ東製油工場ノ一部
操業開始ヲ見越油生産ハ西製油工場二六萬噸東製油工場四萬噸合
計三〇萬噸ノ計畫テアリマス

尙從來ノ計畫ニ加フルニ小塊工場ノ建設ヲモ急速ニ實施スルコト
トシ之ニ應ムル機構ノ擴充ヲ行ヒ陸軍燃料廠其ノ他機關ノ潤滑助

得テ目下悉々其ノ工事ヲ進メテ居リマス

リ 鐵道潤滑油

之ト共ニ鐵道潤滑油ノ空席ヘ大東亞全境ニ亘リ輸送ノ死命ヲ副スル重大同業アリ幸ヒ我カ社ハ頁岩油ニ附随生産スル機ヲ利用セラル潤滑油ノ製造ニ成功シ第一期二千軒生産ノ操業ヲ開始致シマシム、何分ニモ新シイ工業ナル爲操業開始以來運々ノ快報ヲ生シマシムカ最近ニ於テ之ヲ克服シ略軌道ニ就ツタ運轉ヲ致シ本年産生額實額ハ十月末ニテ三一三軒、本年産生額見込ハ八五四軒ト言フ、最近テ只今ノ運轉状況ヲ以テスレハ來年度ニ於テハ略計産額ノ

生産カ可能ナ見込テアリ夫レ迄ノ對策トシテハ現在ノ手持品ヲ節
用シ一部大豆油ヲ混用スル等輸送ニ支障ヲ來サナイ様措置致シテ
居リマス、第二期二千坪ノ生産ニ就テハ第一期ノ經驗ニ鑑ミ設計
ヲ變更シ工場建設ハ略竣功致シテ居リ機器未入手ノ爲操業開始ニ
至ツテ居リマセンカ關係方面ヲ督促シテ機器入手ヲ急キ來年度早
期ニ操業開始ノ豫定テ居リマス之カ完成後ハ大陸ニ於ケル鐵道潤
滑油ハ十分自給シ得ル計畫ニナツテ居リマス

三 資材ノ轉活用及勞務

資材ノ轉活用及勞務ニ付一言致シマス先ス

資材關係ニ就キマシテハ較同ノ現状ニ鑑ミ其ノ節用ヲ圖ル他既存資材ノ撤去轉用ヲ極度ニ實施シ且臨新造ニ於テハ較時規格ヲ定メ極時材ノ撤去轉用ニ約五%貨單一八%ノ資材ノ節約ヲ圖ル外其ノ他ノモノニ就キモ較時規格ヲ採用シ且ニ鋼材ニ關シテノミナラス木材、電線、煉瓦等ニ就キモ或ハ代用品ヲ利用シ或ハ所要量ヲ節減シテ居ル次第アリマス

又撤去轉用ニ就キハ軌條關係ニ於テ本年度ハ六二八軒五三、〇〇〇

應ノ計畫ヲアリ其ノ内則一六料三二、三〇〇圓ハ物動不足ニ充當シ
 二一二料二〇、七〇〇圓ハ朝鮮ニ對スル供出トナツテ居リマス尙鑛
 材ノ不足ニ備ヘ國內製鑛ノ自給ニ尠クヘク諸種ノ製鑛方式ヲ勸策ス
 ル外簡易ナル土法製鑛法ヲ以テ機分テモ其ノ生産ヲ補ヒ履イト考慮一
 致シテ居リマス
 勞務關係ニ於キマシテハ年間募集ヲ要スルモノハ材業全般ニ亘リテ
 ハ約五〇萬ニ上ルノテアリマスカ從來北支ニ依存シテ居タ麥類炭礦
 關係ニ於テ約二萬施設關係ニ於テ約五萬不足ナル外國際運輸ノ關係
 ニ於テ約一萬合計約八萬ノ不足ヲ來タス狀況テアリ其ノ移動率ハ憂

慮スヘキ現状ニ在リマスノテ是等ニ對シテハ鐵道愛護團地區ヲ交通
 關係勞務者ノ地盤トシテ活用スル外滿人輔導ノ施策ヲ充實シ賃銀勞
 需物資配給住宅等ニ就キ折角對策ヲ講シ又其ノ作業能率ヲ昂上スル
 爲荷役ノ機械化ニ關シ考究對策ヲ進メテ居リマス

四 傍系會社事業

傍系會社トシテ當社カ出資致シテ居リマス會社ハ交通運輸、化學工業、一般工業、鑛業、土木、農林、拓殖、商事、通信等各種ニ亘ツテ居リマシテ總會社數六十九社、投資ノ總額ハ現在四億三千萬餘テアリマス

其ノ内當社ノ全額出資ノモノハ十一社テアリマシテ之等ハ皆當社社業ト密接不可分ノ關係ニ在リ滿鐵ヲ核心トシテ其ノ外郭ヲ翼成シ當社使命遂行上絶大ナル役割ヲ努メ戰時下重要産業ノ廣汎ナル領域ニ於テ相互全幅ノ協力下大ニ戰力増強ニ寄與スヘク夫々ノ活動ヲ致シテ居リマス

國際運輸會社

小運送能力擴充ハ現下運輸ニ於ケル最大急務デアリマスノテ之カ陣容
ノ強化ヲ行ヒ又近ク増資ヲ爲ス豫定デアリマス現在全滿ノ小運送對照
量ハ約一億三千萬噸デアリマスカ其ノ内國際ハ只今四〇%ヲ取扱ツテ
居リマス

二 大連船渠鐵工會社

同社ハ政府ノ命令ニ依リ目下鐵鋼計畫造船改良D型船年間八隻ヲ建造
尙船舶修繕能力年間二〇萬噸竝當社竝華北交通車輛一、四〇〇輛ヲ製
造致シテ居リマス

三 滿洲車輛會社

同社ハ汽罐車をカ四年間五〇輛、貨車一、三七〇輛生産ノ目標ニテ目下順調ニ進行中デアリマス

四 滿州人石會社

メタノール年間五萬噸計畫ノモトニ目下著々建設中デアリマス只今ハ低温タールノ生産ノミヲ致シテ居リマス

五 日本精蠟會社

山口縣徳山市ニ在リマシテ撫順炭礦ヨリ年間二萬噸ノ原料粗蠟ヲ輸送シマシテ石蠟ヲ一四、〇〇〇噸生産致シテ居リマシタカ今次軍ノ要望ニ依リマシテ粗蠟ヲ原料トシテ年間五、〇〇〇噸ノ航空潤滑油ヲ生

産スヘク目下軍ノ指導監督ノ下ニ鋭意工場建設中デアリマス

六 滿洲化學工業會社

從來主トシテ硫安ヲ作ツテ居リマシタカ最近軍ノ要望ニ應ヘ濃硝酸一萬二千觔、硝安二萬觔、濃硫酸三萬八千觔、ジニトロクロールベンゾール二千觔ノ生産設備ヲ急キ略完成致シテ居リマス尙同社ニハ富社ノ中央試験所ノ研究ニナル人工ホーキサイト法アルミナノ試験（年産七五〇觔）ヲ行ハシメテ居リマス

七 滿洲鑛業會社

青龍、蒼石外數箇所ノ金鑛山ヲ轉向シテ目下銅ヲ採掘シテ居リマシテ年間約一〇〇觔ノ生産デアリマス又同社ハ最近石人溝ニ於テモリブダ

ン鑛ノ採掘ニ全カヲ擧ケテ居リマスカ之ハ明年度ヨリ年間二五〇萬
純金屬モリブデンヲ獲ルコトトナリマス

ハ 復州鑛業

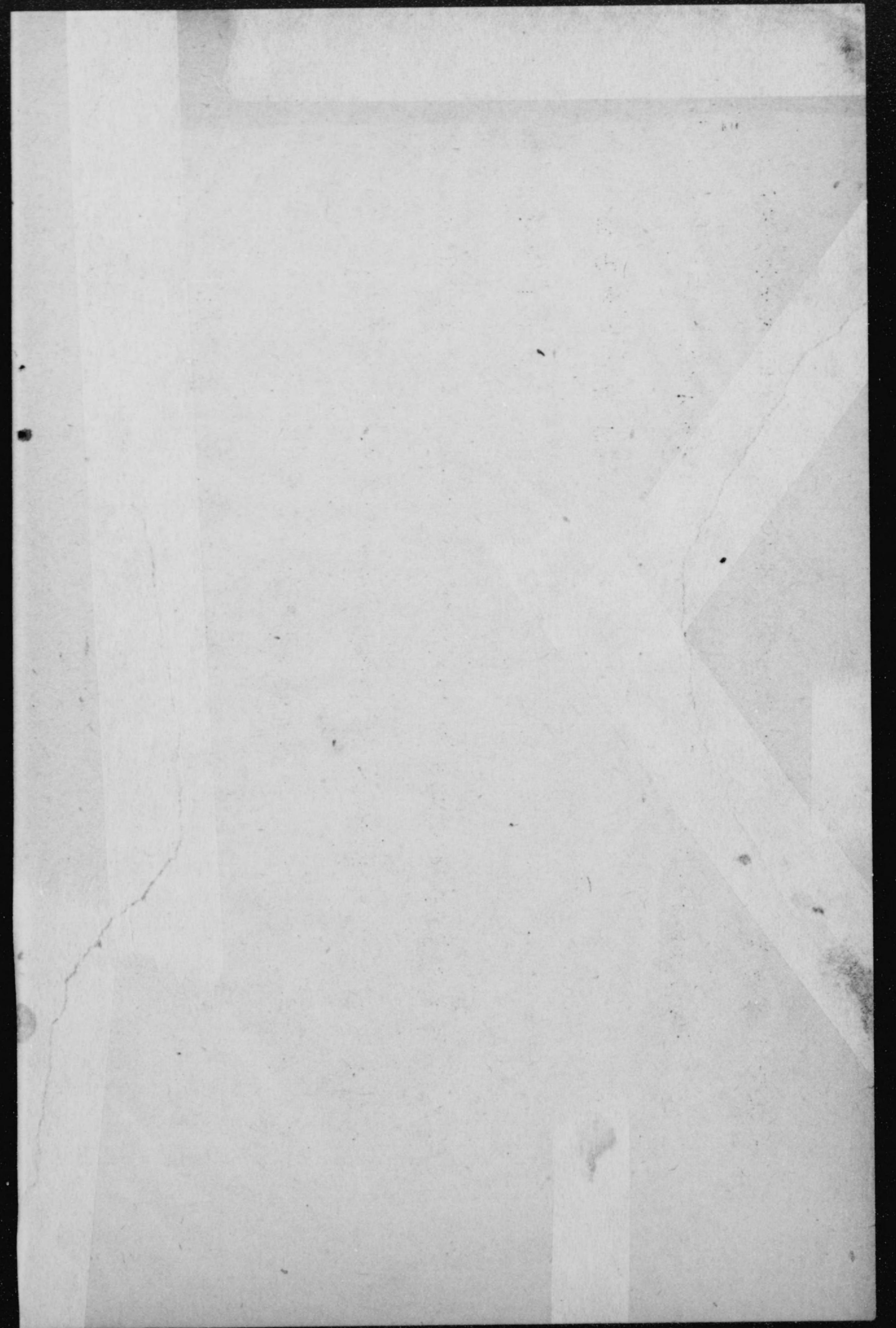
耐火粘土増産ヲ企圖シ從來年間十七萬噸ヲ三十萬噸ニ迄昇セルヘク努
力中テアリマス

冬季輸送対策

本冬季ニ於ケル輸送ノ対策ニ就テハ其ノ他関係機関ノ協力ヲ得
 特ニ車輛ノ整備ニ重點ヲ置キ早期ニ之レカ實施ニ着手致シマシタ
 關係上先般各重役ヨシテ現地ニ就キ其ノ狀況ヲ查察セシメマシタ
 結果ニ徴スルモ概ネ本冬季ヲ突破スル準備ヲ完了致シテ居ル狀況
 テアリマス

二 自動車統制輸送

自動車統制ニ於キマシテハ本年六月ヨリ自動車統制輸送ヲ實施スルコトトシ鐵道自動車
 車ヲ中心トシ之ニ所要ノ民營自動車ヲ統合シ鐵道統制輸送トノ一體的ナ



欠

MISSING

五 増資及増資改正

以上御説明致シマシム御現職届下ニ於テ完遂ヲ要スヘキ事業ハ多ク
アルノテアリマシテ之ニ對シテハ緊急事態ニモ對處シ得ヘキ財政的
基礎ヲモ確立致シテ置カザレハナラフテイノテ目下申請致シテ居リ
マス通鐵道自動車水運港灣各方面ニ於ケル増資資金ノ改正ヲ行ヒ今
後ニ於ケル物價、勞銀高騰ノ趨勢及有事ノ用ニ備フルト共ニ又事業
資金ニ就テハ毎年約十億圓ヲ要スルモノト想定サレマスカ資金ハ本
年度末ニ於テ全額拂込済トナリ又社債發行餘力モ餘ス處殆ト無イ狀
態ニ在リマスノテ茲ニ係四回ノ増資ヲ行フコトトシ擬々四回年ノ按

資見込額約四十億圓ヲ目標トシ社債發行限度ノ擴張及増資ヲ計畫
シ目下内申請ヲ致シテ居ル次第ニアリマス

第三 結 語

之ヲ要シマスニ大體開設三十有八年營々トシテ藥上ケラレタ我社ノ
全能力ハ現決戦ノ段階ニ於テ一切ヲ捧ケ盡シ以テ皇國ヲ扶翼シ奉ル
ノ覺悟ヲ以テ全社一丸トナリ國策使命ノ遂行ニ邁勇致シテ居リマス
從來軍國一如ヲ以テ進ミ來ツタ我カ齋廠ニ齒シ何卒閣下ニ於カレマ
シテハ尙此ノ上トモ充分ニ御指導被下マシテ我社ノ使命達成ニ御
援助賜ランコトヲ御願ヒ致ス次第デアリマス
之ヲ以テ私ノ報告ヲ終リマス

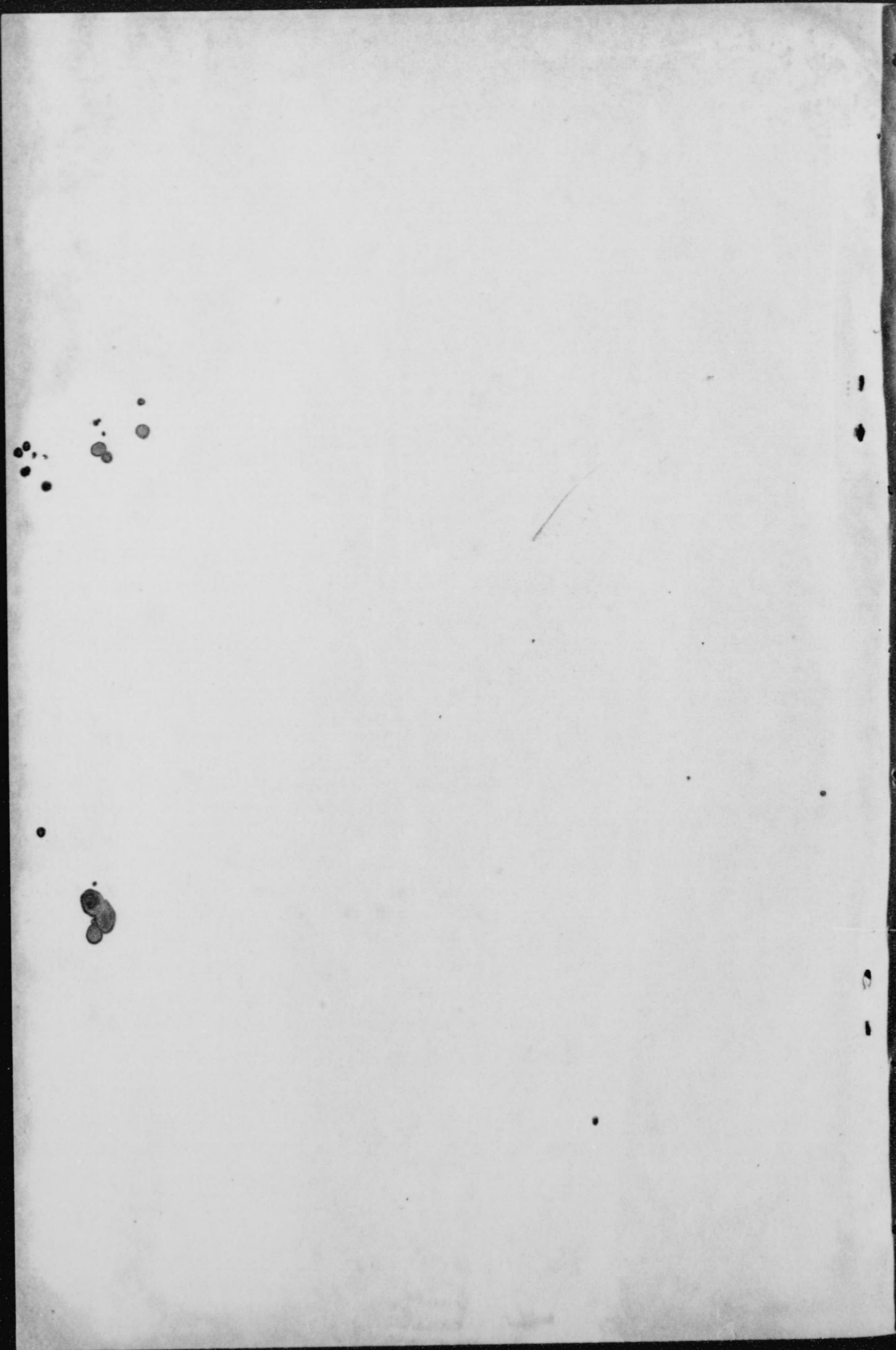
五 増資及増資改正

以上御説明致シマシム御現職局下ニ於テ完遂ヲ要スヘキ事業ハ多々アルノテアリマシテ之ニ對シテハ緊急事態ニモ對處シ得ヘキ財政的基礎ヲモ確立致シテ置カナレハナラナイノテ目下申請致シテ居リマス御鐵道自動車水運港灣各方面ニ於ケル經營料金ノ改正ヲ行ヒ今後ニ於ケル物價、勞銀高騰ノ趨勢及有事ノ用ニ備フルト共ニ事業資金ニ就テハ毎年約十億圓ヲ要スルモノト想定サレマスカ、資金ハ本年度末ニ於テ全額繰込済トナリ又社債發行餘力モ餘ス處殆ト無イ状態ニ在リマスノテ茲ニ御同ノ増資ヲ行フコトトシ御本四箇年ノ投

資見込額約四十億圓ヲ目標トシ社債發行限度ノ擴張及増資ヲ計畫シ目下内申請ヲ致シテ居ル次第デアリマス

第三 結 語

之ヲ要シマスニ大陸開發三十有八年營々トシテ樂上ケラレタ我社ノ全能力ハ現決戦ノ段階ニ於テ一切ヲ捧ケ盡シ以テ皇國ヲ扶翼シ奉ルノ覺悟ヲ以テ全社一丸トナリ國策使命ノ遂行ニ挺身致シテ居リマス從來軍國一如ヲ以テ進ミ來ツタ我カ瀛嶼ニ對シ何卒閣下ニ於カレマシテハ尙此ノ上トモ充分ニ御指導被下マシテ我社ノ使命達成ニ御援助賜ランコトヲ御願ヒ致ス次第デアリマス之ヲ以テ私ノ報告ヲ終リマス



Faint, illegible text is visible on the right page, appearing as ghosting or bleed-through from the reverse side. The text is arranged in vertical columns and is too light to transcribe accurately. Some characters are barely discernible, but they appear to be in a traditional East Asian script.

VER 58



VER 58

